

基準値：1485 (mm)、設計値：1500 (mm) (基準値+許容誤差)

W：車両の曲線偏り量 (軌道中心から1両が曲線内方、外方への偏り量) (mm) 曲線による拡大寸法：23100/R

R：曲線半径、C：カント (mm)、S：スラック (mm)、H：プラットホームの高さ (mm) 設計値：910mm

g：軌間 1067mm カントによる車両 (建築限界) の傾斜に伴う拡大寸法：C×H/g

・計算の基準は内軌側レールの高さ

・基準による設計値

表-1 ホームの離れ

□採用部を示す。

キロ程	外軌側						内軌側						
	X (m)	W (mm)	D (mm)	C (mm)	S (mm)	H (mm)	X (m)	W (mm)	D (mm)	C (mm)	S (mm)	H (mm)	
ホーム始点	7k378m700												
	7k400m000		77	1577	105	10	1112						
ECC1	7k408m389	92.000											
	7k420m000	80.389	68	1568	89	9	1081						
幅員変更点	7k428m700	71.689	61	1561	77	8	1058						
	7k430m000	70.389	59	1559	75	8	1054						
橋りょう始点	7k438m200	62.189	53	1553	64	7	1033						
	7k440m000	60.389	51	1551	61	6	1027						
	7k460m000	40.389	34	1534	33	4	973						
橋りょう終点	7k463m900	36.489	31	1531	28	3	963						
BTC2-17m	7k466m389	34.000	29	1529	24	3	956	0.000	0	1500			
ETC1	7k483m389	17.000	15	1515	0	0	910	17.000	13	1513	0	0	910
ETC1+17m	7k500m389	0.000	0	1500				34.000	26	1526	26	2	885
幅員変更点	7k508m700							42.311	33	1533	38	2	873
	7k520m000							53.611	41	1541	55	3	857
	7k540m000							73.611	56	1556	85	5	826
BCC	7k553m389							87.000					
ホーム終点	7k553m700								66	1566	105	5	804

建築限界 1475 mm

余裕 10 mm

基準値 1485 mm

許容誤差 15 mm

設計値 1500 mm

b)ホームの高さ

・計算の基準は

内軌側レールの高さ

・基準による設計値

建築限界 930 mm

余裕 -10 mm

基準値 920 mm

許容誤差 -10 mm

設計値 910 mm

以上のようにホームの離れの設計値：1500mm、高さ910mmとした。

4. 施工管理

・構造物の仕上がり基準

当該区間は線路線形が複雑な箇所であるため、離れと高さの基準値 1485mm、910mm に対して、より厳しく管理するために、ホームの仕上がりの許容誤差を設計寸法 1500mm に対して +5mm~-10mm に、高さは、設計寸法 910mm に対して 0~-10mm に収めることで管理基準を決めた (図-3)。

先端タイルを設置後 (写真-1)、ホームマスター (ホームの離れと高さを両方測ることが出来る測定器) (写真-2) により 500mm 間隔で測定を行い、品質管理を行った。その結果、すべて仕上がり基準を満足した。

5. まとめ

当該区間は狭隘かつ線路線形が複雑な箇所であるため、

現場の作業条件を考慮し、より厳しい管理値で施工 写真-1 先端タイル設置後のホーム 写真-2 ホームマスターを行った。今後は、平成 19 年 3 月 18 日の開業まで安全第一に、工事を進めていく。

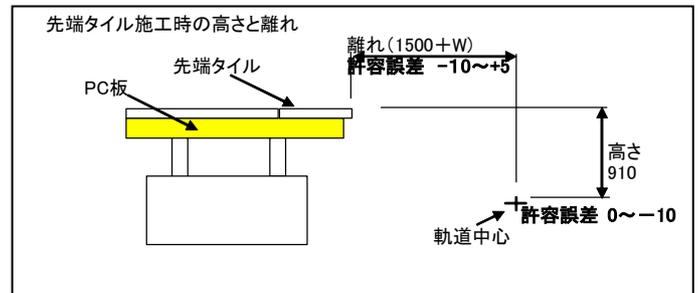


図-3 先端タイル施工時の高さ と 離れ



【参考文献】 1)施設・建設法規類集 鉄道現業社 2) わかりやすい鉄道技術 [鉄道概論・土木編]